

TOPICS

鈴鹿安全運転講習2012

サーキットコースで安全運転を体感

11月下旬～12月初旬、自動車整備科と一級自動車整備研究科の1年生は2グループに分かれて三重県鈴鹿市の鈴鹿サーキット交通教育センターで「安全運転講習」を実施しました。

この安全運転講習は、ぬれた路面でのブレーキングや乗車バランスなどを養うスラローム走行など、様々な実技や学科授業を通して二輪・四輪の安全運転に対する技術と知識を養い、交通社会人の一員としての認識を高める事を目的としています。

また、F1など様々なレースが行われる国際レーシングコースを実際に走行できるのも大きな魅力です。参加した学生は、「安全運転に対する意識や心構えの重要性が分かりました」「レーシングコースを自分で運転したことは一生の思い出です」と貴重な体験で充実した1週間を振り返っていました。



鈴鹿サーキットのコース内で記念撮影



鈴鹿サーキットを走行するのは貴重な体験

鈴鹿サーキットをバイクで走行

濡れた路面での車の制御方法を体感

運転技術を学ぶバイロスラローム

交通教育センターでの二輪講習

お昼はみんなで楽しいランチ

EVENT

海外研修inアメリカ

自動車整備科2年生と一級自動車整備研究科3年生は、11月上旬に海外研修を実施しました。

この海外研修は、異文化交流を通じて、人間的な幅と視野を広げてもらう事が目的です。

アメリカンホンダの訪問では、アメリカ自動車市場とホンダのビジネスを学ぶと共に、グループディスカッションを実施し、現地の日本人駐在員やアメリカ・ホンダアソシエイトの方々との交流を図りました。オプションツアーではオフロードバギー体験やカーミュージアムの見学、さらには本場のユニバーサルスタジオを体験しました。

また、一級自動車整備研究科では、考えて行動する力を養う目的で、学生が自ら研修プランを作成しました。この研修プランで訪問した都市は、ラスベガスとロサンゼルスです。アメリカンホンダでの研修やディーラー訪問、世界最大のカスタムカーショー「SEMA Show」の見学を中心にホンダがアメリカで参戦しているインディカーレースのエンジン開発している「HPD」見学、世界遺産のグランド・キャニオン観光、カリフォルニア州リバーサイド郡にある砂漠リゾートのバームスプリングス観光など研修は幅広い内容でした。



アメリカンホンダでのグループディスカッション



ラスベガスにて宿泊



グランドキャニオンにて



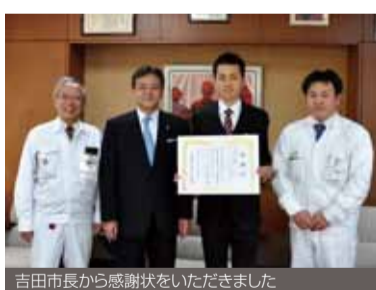
EVENT

「学園祭売上金」を大阪狭山市に寄付

12月14日(金)、学園祭実行委員長の中澤忠貴君(一級自動車整備研究科3年)と滝澤校長は、大阪狭山市市役所を訪れ、吉田市長に学園祭の売上金を寄付しました。

この寄付行為は5年前から毎年行っているもので、寄付金は大阪狭山市内の身障者施設の充実に利用されています。この日も、中澤実行委員長から売上金を吉田市長に手渡し、吉田市長からはお礼の言葉と感謝状を頂きました。

本校は今後も「社会貢献の心と行動力を育む」育成方針にそってボランティア活動にも積極的に参加して行きます。



吉田市長から感謝状をいただきました

寮行事

冬の風物詩「餅つき大会」

12月15日(土)、年末 冬の風物詩「餅つき大会」を寮行事で実施しました。

寮生は早朝から「くみの木寮」ロビーに集合し、順番に杵を持って次々に力強く餅をついていきました。つきあがった餅は皆で、きなこ餅、あんこ餅、おろしポン酢餅、そしてお雑煮と美味しく頂きました。

最近の学生は自宅で餅をつくことが無いので最初は戸惑いながらも、元気がよく楽しくついていました。この「餅つき大会」で益々粘りがでて2013年につながる事だと思います。



餅つき大会の様子



つくった餅を美味しくいただきました

「市内清掃ボランティア」に参加

11月24日(土)、寮生と教職員は大阪狭山市の「市内清掃ボランティア」に参加しました。この市内清掃は、地域住民の方々と一緒に活動することで「社会貢献の心と行動力」を育む事を目的に年に二回実施しています。

10名単位のグループで分担エリアを決めて、国道沿いの歩道や住宅街の側溝、近隣の公園等を約1時間かけて清掃しました。特に目立ったのが「ペットボトル」と「吸殻」。おそらくクルマからや歩きながらの「ポイ捨て」と思われますが、学生はゴミを拾いながら「マナーの重要性」も考えながら作業を行っていました。

全員のパワーを集結させて最後は軽トラック1台分のゴミを収集し、学生は参加した市民の方々とコミュニケーションを取り、心地よい汗を流しました。また、清掃終了後は学生寮で「ト汁」が振舞われ、心も体も暖まるボランティアとなりました。



ゴミの分別をして終了



グループに分かれてスタート

特別講話「二輪サスペンション・レースセッティング」

12月25日(火)、特別講話として(株)ショーワから二輪サスペンション開発部の松原様をお招きして「二輪サスペンション・レースセッティング講話」を開催しました。

(株)ショーワといえば、二輪のショックアブソーバやリアクッション部品を主に二輪・四輪・汎用のサスペンション関連部品を製造開発しているメーカーです。また、本校の二輪整備同好会の「8時間耐久ロードレース参戦」にあっても技術サポートをして頂いています。

この日は、松原様ご自身の学生時代のレース活動の話から、ショーワでの部品開発業務、そしてメインのWGPからMotoGPでのレースサスペンションセッティングの秘話など幅広くお話を頂きました。

「サスペンションは、エンジン・フレーム・タイヤ・ライダー等、全ての情報を基にセッティングを考える」事が必要で、レース界でショーワは「チーフエンジニア養成部門」と言われるほど注目されています。

講話終了後も学生は、実際の部品を手にしながら量産品とレース仕様の違いや、レースから得たノウハウがどのように量産品へフィードバックされているのか等、積極的に質問して予定の時間を大幅にオーバーするほど貴重な講話となりました。



「ホンダ救命救急法」講習会開催

1月22日～24日の3日間、鈴鹿サーキット交通教育センターから3名のインストラクターを迎え、自動車整備科と一級自動車整備研究科の1年生を対象にホンダファーストエイド(救命救急法)とチャイルドシートの取付講習を実施しました。

この講習は、将来「自動車整備士」として、お客様のカーライフをアドバイスするにあたって、必要なスキルの一つで、「お客様に信頼される整備士」を目指して、全員が心配蘇生法や止血法、AED操作方法等の応急処置、及び正しいチャイルドシートの取付方法を真剣に学んでいました。

事故現場では119番から救急車が到着するまでのわずかな時間が、生死を分ける時間と言われており、この対応(救命救急法)がとても重要なカギとなります。

本校では、在学中に知識だけではなく、このような実践的講習を受け、万が一の際、人命救助が出来る事を目指しています。

(学生レポート) 人命救助の重要性はもちろんですが、講習を通して整備士は「お客様の命を預っている」事にあらためて気づきました。明日からの整備授業もこの気持ちを忘れないように取り組んでいきます。



ホンダファーストエイド講習の様子



チャイルドシートの取り付け講習の様子